

文化財 ニュース

29 Spring 2023

特集

文化財を末永く後世に 伝えるために

—IPM (総合的有害生物管理) の取り組み—

日比谷図書文化館文化財事務室では、地域の歴史を伝える様々な文化財を数多く保管しています。今回は当室が行っている文化財保存手段のひとつである IPM の取り組みと、当室が支援した地域の文化財保存活動を紹介します。



▲文化財害虫による食害に遭った江戸時代の本

Index

- 1-3 特集
文化財を末永く後世に伝えるために

- 4-5 Chiyodaコレクション
須恵器に書かれた文字を読み解く

- 6-7 日比谷ミュージアムガイド
日比谷図書文化館 常設展示室
“発掘されたくらしと環境”の見どころ

- 8 文化財事務室通信
令和5年度年間スケジュール(予定)

IPM とは

文化財を永く守り伝えるにはなるべく劣化を遅らせることが重要です。文化財の劣化の原因は光や異物混入、自然災害などが挙げられます。その中でも虫やカビ、鳥獣などの生物による被害を防ぐ手段のひとつが IPM です。IPM とは Integrated pest management の略で、総合的有害生物管理と訳されます。

文化財を末永く後世に伝えるために — IPM (総合的有害生物管理) の取り組み —



IPM の考え方と方法

戦後、博物館の有害生物への対策は、特定の薬剤を使用した全館一斉燻蒸による駆除が主流でした。しかしこの薬剤が環境保護のため規制されたことをきっかけに、有害生物対策の考え方は被害に遭ってから「対処」するのではなく、薬剤のみに頼らず、被害に遭う前にその原因を取り除き「予防」するものへと変化しました。IPM では科学的手法・生物的手法・物理的手法・環境的手法など複数の手法を総合的に用いて、人間と有害生物の持続的な棲み分けを目指します。当室では、主に以下の取り組みを実践しています。

① 温湿度管理

紙や木などから作られた文化財にとって、高温多湿な日本は有害な虫やカビが発生しやすい環境と言えます。カビを発生させないためには保存環境を適温湿度に保つことが重要です。そのため収蔵庫では温度 $20^{\circ}\text{C} \pm 2^{\circ}\text{C}$ 、湿度 $55\% \pm 5\%$ を目安に、一定に保つようにしています。また特に素材がデリケートな掛け軸、漆器などはより一定の湿度に保てるようキャビネットに入れて保管しています。



▲温湿度を記録するデータロガー

酸性紙は劣化するとボロボロと崩れてしまいます▶



◀中性紙箱による保存

② 中性紙封筒・箱による保存

紙や布製の文化財は中性紙で作られた封筒や箱に入れて保管しています。pH 値が中性の紙を使うことで、19 世紀半ば頃から洋紙の主流となっている酸性紙の劣化を遅らせることができます。

保管の際、一般的によく用いられるプラスチック製の密封ケースや段ボール箱は、前者は湿気がこもりやすいため、後者は害虫の餌になる、吸湿性が高いためカビが発生しやすい、文化財に有毒なガスが発生するため、いずれも保管には適しません。

③ 定期的な清掃と害虫モニタリング

塵や埃は害虫やカビの温床となるため、収蔵庫や常設展示室は定期的に清掃を行っています。またどのような害虫が潜んでいるかを確認するため、害虫トラップを仕掛け、発生害虫の定期観測も行っています。トラップで確認できた害虫に対しては有効な忌避剤の設置や周辺の清掃の強化を行っています。

一方で、日比谷公園から常設展示室に迷い込んだ無害な昆虫は公園にリリースするなどしています。

収蔵庫はスリッパに履き替え粘着マットを踏むことで塵芥の持ち込みを予防します▶



◀害虫トラップと忌避剤 (白テープ)

IPM ではかつて行われていた全館一斉燻蒸のように、大規模で強力な対策 1 つを用いるのではなく、とすると地味で面倒な、小規模な複数の対策を日々積み重ねることで保存環境の管理を行います。施設的な制約から難しい部分もありますが、今後も当室では文化財を末永く守り後世に伝えるため、様々な取り組みを行っていきます。

(学芸員 岩城晴美)

地域の文化財保存活動

～番町幼稚園の霜月虫干し会～

千代田区の文化財は当室が管理しているもの以外にも、区内各所で保存されています。それら地域による文化財保存活動の事例として、番町幼稚園の取り組みを紹介します。

番町幼稚園の「記憶を残す会」

番町幼稚園は明治22年（1889）に前身となる番町尋常高等小学校附属幼稚園として開園した歴史ある幼稚園であり、園には明治時代からの貴重な資料が受け継がれてきました。それらを後世に残していきたいとの思いから、保護者の方を中心に「記憶を残す会」が発足し、資料整理が始まりました。

整理作業では、昭和館のアドバイスを受けながら全ての資料の情報を記録・分類し資料番号を付け、資料リストを完成させました。つづいて資料の保存作業では、当室協力のもと、資料を中性紙の封筒と中性紙箱に収納しました。保管場所は虫が少なく光を遮断する環境を選び、湿気を逃がすためすのこを敷きました。



▲大正4年の園舎と園児たち

霜月虫干し会の開催

資料を長くしまい込んでおくと湿気がこもり、カビなどが発生しやすくなります。そこで行うのが虫干しです。虫干しとは、天気のいい乾燥した日に資料を陰干しし、外気に触れさせることです。奈良の正倉院や栃木の足利学校で行われているものが有名です。虫干しは資料に風を通すとともに、状態をチェックする機会でもあります。

令和4年（2022）11月末、保護者6名と園長が参加し、虫干し会が開催されました。ビニールシートを敷いた上に薄葉紙（中性紙）を敷き、その上に資料を並べて風通しを行いました。今回虫干しを行ったのは大正時代から昭和20年代までの修了アルバムです。風通しのためにページを捲りながら、昔との違いや現代でも受け継がれている要素を見つけては話に花が咲きました。



虫干し会の様子

子ども達に、この大都会の真ん中が故郷であるという帰属意識を持ってもらいたい、この地に根差した感覚を養って欲しいとの思いを込めたこの活動が続くことで実りあるものになるよう願っております。



記憶を残す会 代表
上山ありすさん

文化財というと博物館にあるものや立派な建物を想像するかもしれませんが、しかし私たちの身近にも数多く存在しています。それらを自分たちの手で守っていくことが、地域の歴史の継承には大切なことです。

須恵器に書かれた文字を読み解く

今回紹介する資料は、令和2年（2020）6月8日～同年11月30日まで、神田猿楽町一丁目遺跡（お茶の水小学校）で出土した底部外面や体部外面に墨書が記された須恵器坏（墨書土器）です。紹介資料には、「+」や「×」、「舌」などの文字が墨書されており、区内では出土例がない須恵器となります。紹介資料のような「+」や「×」が墨書された須恵器は、周辺地域では本遺跡の北側約1kmに位置する文京区の真砂遺跡や弓町遺跡、北西約2kmに位置する新宿区の筑土八幡町遺跡で出土例があります。



【図1】調査地点

神田猿楽町一丁目遺跡の発掘調査

本遺跡は駿河台西側に下った低位台地上に位置し、調査では縄文時代～近代の遺物・遺構が確認されました。近代の池跡、近世の武家屋敷に関する遺構が検出されたほか、最下層の遺構面からは古代～中世にかけての自然の流路跡が検出されました。この流路跡からは、紹介資料をはじめ、区内の遺跡としては珍しい土師器・須恵器などの遺物が多数出土しています【写真1・2】。



【写真1】自然の流路跡



【写真2】流路跡から出土した遺物

発掘調査で出土した須恵器（墨書土器）

須恵器とは、古墳時代中期（5世紀初頭）に朝鮮半島から伝来した青灰色の硬い土器です。その後、平安時代前期頃（9世紀末）まで日本各地で生産されました。

本遺跡から出土した須恵器（墨書土器）には、生産窯や工人の目印として、窯で焼く前に刻まれる「Z」のようなヘラ記号が施されています【写真4】。こうしたヘラ記号や胎土の特徴から、本資料が8世紀後半頃に埼玉県比企郡南の鳩山窯跡群（現在の埼玉県鳩山町）で製作され、直線距離約60kmの本遺跡周辺まで、はるばる持ち込まれてきたと考えられます。

確認された「+」や「x」の墨書は、古くから魔除けを意味する記号とされてきました。また、「舌」の須恵器（墨書土器）は、意図的に底部だけ残して割る「打ちかき」がされており、全国的にも祭祀に関わる遺跡で確認されています【写真5】。都内では、多摩ニュータウン No.107 遺跡（八王子市）や下宿内山遺跡（清瀬市）の水場遺構から同様の墨書土器が出土しており、水辺の祭祀を行う際に使用されたと考えられています。今回の発掘調査では、古代の集落や祭祀に関係する遺構は検出されませんでした。自然の流路が検出されています。これらから紹介資料は、本遺跡の自然の流路が続く東側の台地上あるいは西側の微高地周辺で行われた水辺の祭祀時に投げ込まれたと推測できます。

今後、区内でより多くの墨書土器や古代の集落遺構が検出されれば、当時の神田猿楽町周辺の祭事等も把握できると考えられることから、今後も調査を続けていきます。

（学芸員 山田暁也）



【写真3】「+」が記された墨書土器



【写真4】「Z」がヘラ書きされた墨書土器

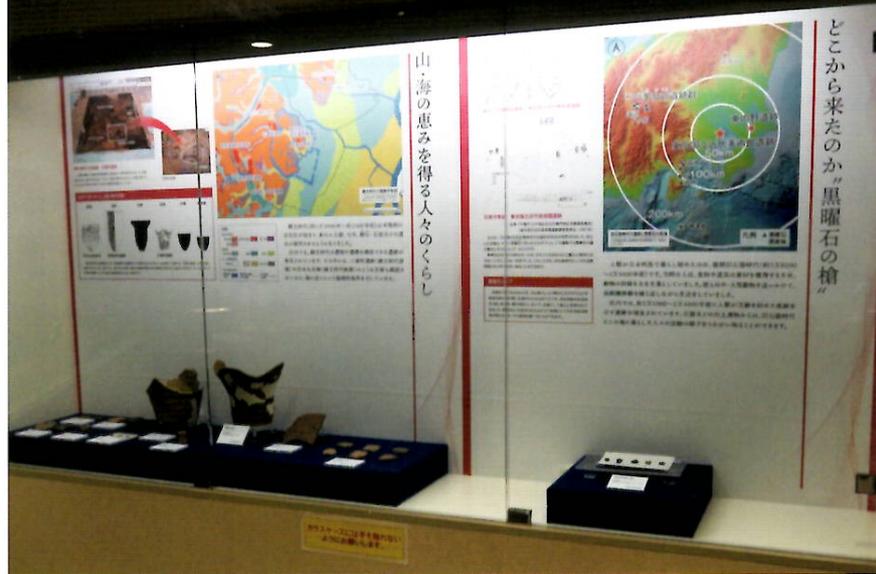


【写真5】「舌」の墨書土器

日比谷図書文化館 常設展示室 “発掘されたくらしと環境” の見どころ

文化財ニュース 27 号でも紹介した常設展示の展示替えですが、本号では常設展示室 1 室の見どころをご紹介します。1 室は区内の先史時代（旧石器時代～古墳時代）に関する遺物を展示しています。

区内における周知の埋蔵文化財包蔵地の件数は 96 箇所ありますが、先史時代の遺構・遺物が発掘調査によって確認された遺跡は僅か 15 箇所程度になります。平成以降の発掘調査によって、区内における先史時代当時の人々の暮らしを窺い知れる遺物が増えてきたので、その結果を反映した展示を行いました。



【写真 1】常設展示室 1 室 発掘されたくらしと環境の展示状況①

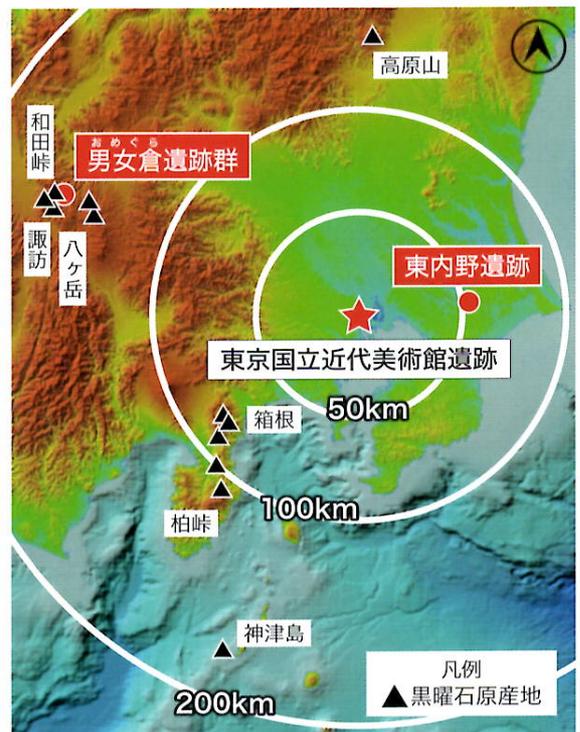
区内の旧石器時代・縄文時代

1 室の展示スペース手前側では旧石器時代と縄文時代の遺物を展示しています【写真 1】。いま現在、区内で旧石器時代の遺物が集中して発見された遺跡は、北の丸公園内にある東京国立近代美術館遺跡のみになります。本遺跡からは、石器（有樋尖頭器、削片、剥片等）が出土しています。これらは関東ローム層から出土しており、いまから約 24,000 年前頃の石器だと考えられます。ここでの見どころは有樋尖頭器です【写真 2】。有樋尖頭器は、尖頭器（表裏両面に二次加工がほどこされた槍先形の石器）に樋状剥離と呼ばれる特徴的な加工が施されたものです。有樋尖頭器には、平面形が左右対称のもの、左右非対称のものなどがあり、長野県男女倉遺跡群や千葉県東内野遺跡などから、当時の技術や行動を伺うことができる遺物が発見されています。

見どころは、石器に使用された石材が黒曜石であることです。都心部では黒曜石を手に入れることはできないため、最も近い場所でも伊豆半島まで行かなければなりません。これは当時の人々が長距離を移動していた証拠といえる遺物になります【図 1】。



【写真 2】東京国立近代美術館遺跡出土の有樋尖頭器と削片



【図 1】遺跡と黒曜石原産地の位置

区内で縄文時代の遺構・遺物が発見された遺跡は数箇所ありますが、竪穴式住居跡が検出されたのは、東京国立近代美術館遺跡と三番町遺跡の2箇所のみです。

見どころは、三番町遺跡出土の遺物です。本遺跡では、縄文時代前期の竪穴式住居跡に貝層が伴っていました。このような遺跡は区内で今のところここだけです。1室では、当時の人々が食べていた貝や使用していた道具を展示しています。展示している遺物には土器、石器（石鏃、打製石斧）、耳飾り等が含まれています【写真3】。



【写真3】三番町遺跡出土の遺物

区内の弥生・古墳時代

区内で弥生時代の遺構・遺物が発見された遺跡は意外と多く、いま現在で11箇所になります。1室では、永田町二丁目遺跡の弥生時代中期の土器、隼町遺跡・一番町遺跡の弥生時代後期の土器を展示しています【写真4右側】。



【写真4】常設展示室1室 発掘されたくらしと環境の展示状況②

見どころは、一番町遺跡から出土した土器（甕）です【写真4中央の土器】。この土器は方形周溝墓と呼ばれる、当時の墓から出土したものであり、使用による摩滅等が比較的に少ないため、当時の有力者に供えられた土器の可能性があります。

区内で古墳時代の遺構・遺物が発見された遺跡は、富士見二丁目遺跡、東京国立近代美術館遺跡、江戸城跡山里門石垣調査地点の3箇所になります。

見どころは、区内唯一の古墳（円墳）が発見された富士見二丁目遺跡の写真です【写真5】。この古墳は、旧平川（神田川）を望む台地上に立地しており、神田川流域の円墳としては最も古い時期（5世紀前半）に築造されたと考えられます。調査時には古墳の墳丘部はすでに消失しており、古墳の周溝とそれに伴う遺物が発見されました。

平成以降増えた区内の先史時代の資料も、旧石器時代から古墳まで通史的に展示できるようになりました。区内の先史時代までの様子を、これからもより詳しく調べていこうと思います。

（学芸員 濱口皓）



【写真5】富士見二丁目遺跡の古墳

令和5年度年間スケジュール（予定）



文化財講座

講座名	内容	開催時期
江戸城登城ウォーク	国特別史跡江戸城跡を歩きながら、歴史を学びます。	11月頃
地域の歴史を知る講座	常盤橋周辺を歩きながら、歴史を学びます。(仮)	1月頃
ちよだの歴史と文化の講座	区内の地形と先史時代の遺跡について学びます。(仮)	2月頃
講座名	内容	開催時期
こども体験教室 手描き提灯をつくろう	提灯など昔の灯火具について学び、提灯の絵入れを体験します。	8月頃
こども体験教室 はじめての蒔絵	漆工芸技術の1つである蒔絵を体験します。	3月頃

※日程の詳細については、別途お問い合わせください。



都営地下鉄 ●三田線「内幸町駅」徒歩3分
 東京メトロ ●千代田線
 ●日比谷線
 ●丸ノ内線 「霞ヶ関駅」徒歩5分

駐車場 当施設に駐車場はありません。

開館時間 月～金 10時～22時
 土 10時～19時
 日・祝 10時～17時



文化財事務室 月～金 10時～18時 文化財ホームページ

※企画展・特別展の観覧時間は異なる場合があります。
 最新情報はホームページ等でご確認ください。

休館日 毎月第3月曜日

文化財ニュース 第29号 (3,000部)

発行日 令和5年3月20日

編集 千代田区立日比谷図書文化館 文化財事務室
 〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4
 TEL:03-3502-3348 FAX:03-3502-3361
<https://www.edo-chiyoda.jp>

発行 千代田区教育委員会

印刷 日本印刷株式会社